

■本號口繪大下氏の分は何れもワツトマン九ツ切のスケッチより撮りしもの、磯部氏の分はOW紙四ツ切のスケッチに御座候

■次號にはロンドンタイムス所論、石川氏譯の『寫眞と繪畫』より題する講話、大下氏の『靜物寫生の話』續稿を出す筈に候

■口繪は眞野紀太郎氏の『葉鷄頭』、中繪は松岡友次郎氏の『京の涼み』、寫眞版には太平洋畫會展覽會出品の水彩畫を挿入可致候

■夏期講習會は、廣告の通りいよく鎌倉と決定致候。本年迄既に四五回、本會又は日本水彩畫會の名義の下に、年々開催結果を收めつゝ有之候へ共、開會前の準備、會場の交渉、會員宿所の選擇談判等に少なからぬ時間と勢力と心配とを要し候に付、或は本年限りにて廢止（本會の主催は）可致候哉も難斗候間、諸君もなるべく御繰合せ御出席を希望致候

■本會主催としての講習會は、前述の如

く本年限りと可相成候も、各地有志に於て相當の設備を整へて御申越被下候はば、會よりは講師を出張致させ可申候。

■昨年講習會へ御出席の方は、重に關西地方に住居致され候事なるが、今年はチト遠方になりしも、願くは御參會ありたく、繼續して御研究になることは大なる利益なるべしと存候

■石川、丸山、大下諸氏の共著『最新水彩畫法』は、近日小石川久堅町成美堂より發行致す筈に御座候。内容は、本誌初號より二三十號頃迄の講話、並に他の新聞雜誌に講説せしものを補修し、順序を立て編輯致候ものにて、理論及技術の二方面に涉り居候間、諸君を益すること少なからざるべしと存候。本誌初號より御所持の方と雖も、順序を正しく御再讀ある時は、又更に新しき教訓に接するの思ひあるべく、本書を求められ候も決して重複の憾は有之間數候

近事

△五月三十日、臺灣總督府中學校に於て、

石川欽一郎氏主宰の下に水彩畫展覽會を開かれたり、作者及出品數は、石川欽一郎（二十三點）、花園世師（四點）、小熊寅之助（五點）、渡邊竹次郎（四點）、松崎靜祐（四點）、小早川守（三點）、寺田信長（三點）、湯淺直松（二點）、入江操（二點）、合計五十點にて頗る盛會なりしといふ。陳列作品、並びに陳列の模様、會員の寫眞は次號に掲出すべし

△日本水彩畫會研究所に於ける七月二十六日より九月十日迄休課中の一切の事務は春鳥會にて取扱ふ筈なり

△土佐國安藝町、九十九洋畫會にては、四月十六日より十日間、同町岩井氏宅に展覽會を開けり。出品點數七十、盛會なりしたため第二回を九月月上旬に開くべき計畫なりといふ

△長野市大門町松花堂にては、今回森親子商會直輸入のラフエル及ニュートン商會の水彩繪具の取次販賣をなすべしといふ